



宮崎 匠 議員

行政区運営補助金の増額について

質 区長事務委託料をはじめとする補助金等を各行政区へ交付していますが、その中で地域間格差が生じていると考えています。この現状も踏まえて、行政区運営補助金の概要について伺う。

答 総務課長（宮平寛）

1世帯平均3万円に足りない区、村内では谷茶区、富着区、前兼久区、仲泊区の4区に対して総世帯数に3万円を乗じた金額を均等割で20%、世帯割で80%に案分した合計額から、分収金等を差し引いた額を交付するという事業の内容となっております。

質 軍用地料は毎年約1%ずつ増額しています。その増額に伴い軍用地所在区交付金（分収金）は、平成8年から令和5年の約27年間の間で

2億1千633万円の増額になっているのに対し、行政区運営補助金については平成8年11月1日から改定されていません。このことから、平成8年から約27年間の間で行政区間の格差が広がり続けていることが分かります。このような現状について、執行部の見解を伺う。

答 総務課長（宮平寛）

村としてはこの行政区運営補助金の増額については、現時点では考えていません。

質 今回の質問を取り上げるに当たり、12行政区回らせていただきます。その中で意見を伺いました。まず行政区運営補助金の補助を受けている行政区の意見として、「物価高に加え地域間の格差が広がっている現状に対応していただきたい。厳しい運営が強いられている中で、活動自体も制限している部分がある。ぜひとも行政区運営補助金を増額してほしい。」という意見がありました。また一方で軍用地所在区交付金を交付されている行政区からは、「増額してもよいと思う。物価高も大変な状況になっている。」「これまでの増額のスパンを見ても早く上げるべきである。やはり行政区間の格差は感じている。村行政には、この

点も考慮して増額について考えていただきたい。」「増額してもよいと思う。分収金のない行政区が財源的に厳しいのは理解している。」「という意見をいただきました。この意見も踏まえて、改めて村長の見解を伺う。

答 村長（長浜善巳）

この件に関しては今後行政区長会の皆様をはじめ、また様々な関係する方々がおられますので、意見を聞き取りしていきたいと思っています。

提 地域間格差のある現状と物価高騰が進んでいる昨今の社会情勢から見ても、行政区運営補助金の増額は急務であると考えます。分収金をもらっている地域の区長の皆様方も、誰一人としてネガティブな発言をされた方はいませんでした。皆さん増額したほうがよいと思う」と。やはり地域間格差について、各行政区長は理解している点がありました。この共通認識として、村行政も前向きに取り組んでいただきたい。

若手漁業者におけるベース（船の停泊場所）不足について

質 次年度において前兼久観光関連施設

設備事業として浮桟橋及び岸壁工事が予定されています。この浮桟橋に遊漁関連船舶を集約することで、空きが出た漁業専用ベースに若手漁業者の優先使用を推進することで、本村における漁業の更なる発展に繋がると考えます。若手漁業者のベースの優先使用の推進について執行部の見解を伺う。

答 農林水産課長（平安名 盛常）

若手漁業者が安定した操業を行える環境を整えることは、漁業の持続的発展のために非常に重要な取り組みと認識しています。ベースの有効活用に当たっては公平性や漁港全体の運用状況を踏まえながらも、地域漁業の将来を担う若手漁業者に対する支援は必要と考えています。今後、若手漁業者が優先的にベースを活用できるように漁業関係者と協議を進めていきます。

提 若手漁業者も様々な課題を抱えながら日々頑張っているところもあります。村当局としても漁業協同組合と連携して若手漁業者のベースの優先使用、まずここがスタートだと思えます。若手漁業者の支援策も提案させていただいています。継続して漁業を盛り上げていけるように取り組んでいただきたい。



亀谷 梢 議員

学校施設及び通学路の安全管理

質 各学校の現在の老朽化状況を伺う。

答 学校教育課長（仲村泰弘）

小中学校の敷地内で築40年を超えている主な建物については、現在学童クラブで使用している安富祖小学校園道側の特別教室棟と仲泊小学校屋外プールとなっており、それ以外の建物は築31年以内となっております。

質 各学校から施設の修理や改善の申入れはどう対処しているか伺う。

答 学校教育課長（仲村泰弘）

児童生徒の安全確保のため、学校教育課の施設係のほうで情報を集約しています。簡易な修繕の場合には専門業者に修繕を依頼し、また修繕箇所については予算の面や業者との調整に少し

時間を要するもの、計画的に修繕を行っています。

質 安富祖小学校校舎内の電灯が、暗いという印象を受け学習上で大切なことだと思えます。改善計画、LED導入の計画はあるか伺う。

答 学校教育課長（仲村泰弘）

LED灯への改修についての連絡は受けています。脱炭素や将来的な財政確保に向け、学校教育課としては最終的には全小学校LED化を図っていきたいと考えています。

質 通学路の安全管理について、恩納小学校の裏門歩道のガードパイプが腐食、折れて突き出しているとの認識をされているか伺う。

答 建設課長（當山 国博）

通学路のガードパイプ腐食については、所管課として認識しています。当路線は、令和7年度に改修工事計画しています。その際に対応する予定

職員の連携と意識のあり方

質 各課の連携はどういうふうに取っているか伺う。

答 総務課長（宮平寛）

各課の連携というところで特に大きいのがうんなまつり、産業まつり、そういった各種イベントが挙げられます。イベントを実施する際には、職員の動員をはじめ関係団体と連携となることは多くあります。庁内の情報共有システムもあります。イベント動員等については職員、会計年度任用職員も含めて全てが情報共有できる体制にはなっています。

質 文化展と生涯学習等成果報告展、担当の職員しかいなくて事業であれば協力するという体制を取っていたらいいか。村民の評価にどうつながるかを伺う。

答 社会教育課長（山田 俊幸）

職員の参加が少ないという指摘ではあります。休日に実施される場合には個人の調整等もつかず、参加ができない場合もあると考えています。

防災グッズ（持ち出し袋）の状況

質 村内で何%の方が防災グッズの準備ができていると思われるか伺う。

答 総務課長（宮平寛）

村全体としてどれだけの人が所有、保持しているのかという調査は行っていません。正確な数字はお答えできない状況です。

質 南恩納区で防災訓練があつて、防災グッズの準備ができているかアンケートを取った結果、20名中2名、10%、恩納区産業まつりにアンケート、50名のうち10名で20%でした。各行政区のほうで注文を受け販売する方法を取れないか。補助ができるか見解を伺う。

答 総務課長（宮平寛）

村のほうでもサンプルとしては整備を行い、防災訓練または防災フェア、イベント等がありましたら展示しながら周知のほうもできたらと思っております。現時点では補助というところについては検討していません。防災グッズについては防災の自助の範囲であると考えており必要性の周知を徹底していきたいと考えています。

